

Hisense

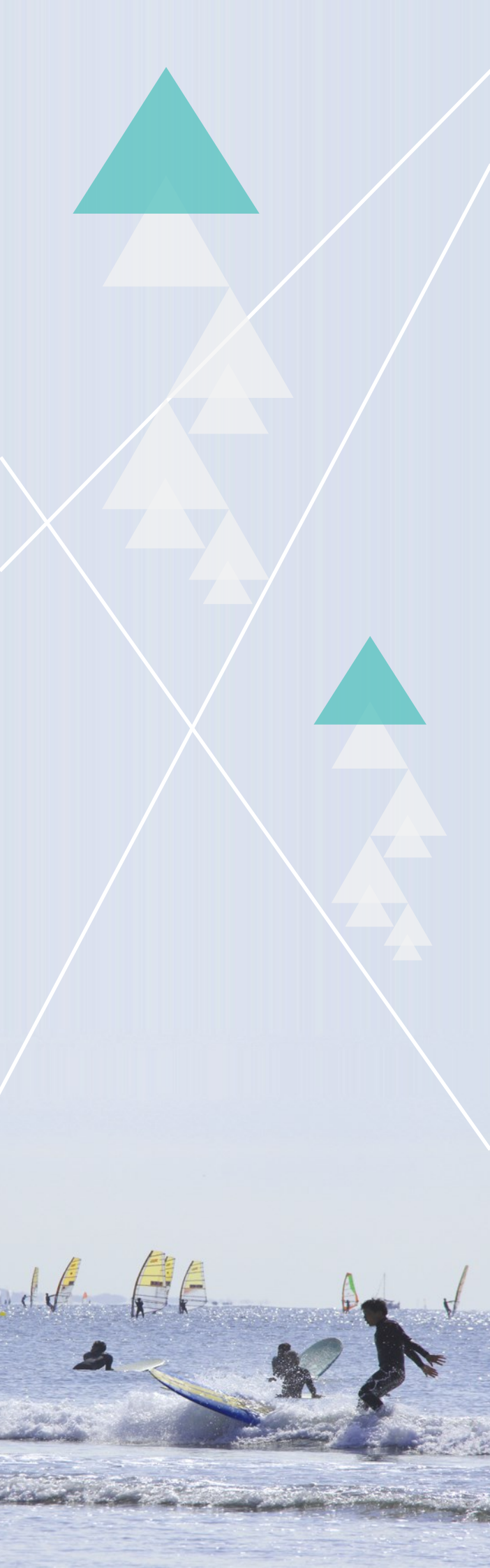
CSRLレポート 2022

ハイセンスジャパン株式会社



[目次・INDEX]

■ 企業理念	>> P03
■ CSR・SDGsへの取り組み	>> P04
■ 活動一覧	>> P05
■ 活動レポート	>> P06
1. 自然環境の保護	>> P06
①「海の豊かさを守ろう」 国際的な環境認証ブルーフラッグの活動支援	>> P06
②「今月の福星」PIRIKAイベント	>> P09
2. 地域社会への貢献	>> P10
①「ひとり親の食糧支援」 NPOフードバンク横浜の活動支援	>> P10
②「ジョブまるキッズ」 川崎市幸区子ども職業体験イベント	>> P12
③子どもの居場所 「新座子育てネットワーク」の活動支援	>> P13
④子ども食堂への寄贈	>> P16
■ 企業概要	>> P17



In Love with Technology

Hisense企業理念

ハイセンス——信頼できるパートナーをめざして。

創業100年を超えてもなお世界で最も信頼されるブランドであり続けるために。

私たちは科学と技術の革新に、絶え間ない熱意を注ぎ続けます。

世界中の人々のクオリティ・オブ・ライフを向上させ、ご家族の幸せの実現を願って。

ビジョン

ハイセンスは創立100周年に向け、世界で最も信頼されるブランドをめざす。

ミッション

技術革新で知能化生産を核とした先進製造業をリードし、人々の生活品質を向上させ全ての家庭に幸福をもたらす。

価値観

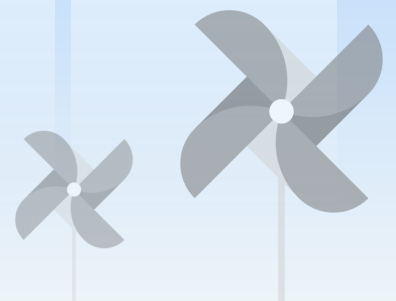
誠実・正直・革新的
・顧客第一・持続可能な経営。

企業精神

敬人・敬業・創新・
高効率

企業姿勢

スピードと決断力をもって、粘り強く新しいビジネスを探求する。



CSR・SDGs への取り組み



CSR・SDGsは、ハイセンスジャパンの重要な経営方針の中核にあり、従業員を動機付けるものであるとともに、長期的な事業成長を支えていくものと位置付けています。そのなかで、当社では、社会課題への優先度と当社の専門性をいかせる活動として「自然環境の保護」「多様性の尊重と高齢社会課題」「地域社会への貢献」の3つの重点テーマを掲げ、CSR・SDGsの達成へ向けて貢献しています。当社の製品はご家庭で使って頂くものがほとんどです。ご家族の皆様がいつも健やかで、生き生きと暮らせる社会づくりのために、微力ながら今後も、社員一同、尽力してまいります。

01 自然環境の保護

「海の豊かさを守ろう」というSDGsのゴール14への貢献となり世界的なビーチの環境認証「ブルーフラッグ」の日本での活動を応援していきます。

02 多様性の尊重と高齢社会課題

SDGsゴール3の「すべての人に健康を、福祉を」をテーマに高齢福祉施設との連携を模索して微力ながら社会貢献させていただきます。

03 地域社会への貢献

SDGsゴール1の「貧困をなくそう」、ゴール4の「質の高い教育をみんなに」、ゴール11の「住み続けられるまちづくりを」をテーマに活動されているNPOの皆様と協働させて頂き、社員のボランティアやハイセンスジャパンならではのご支援を展開してまいります。

生活の豊かさを創出し、
持続可能な社会づくりに
貢献します。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

世界を変えるための17の目標

01



14 海の豊かさを
守ろう

02



3 すべての人に
健康と福祉を

03



1 貧困を
なくそう



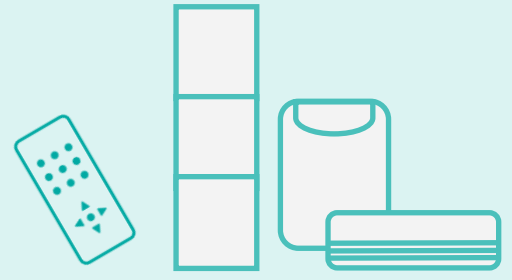
4 質の高い教育を
みんなに



11 住み続けられる
まちづくりを

Hisense Japan contributes to SDGs

活動一覧



- 1月 全国子ども食堂応援プロジェクト<第三回>
- 3月 子どもの居場所「新座子育てネットワーク」の活動支援<第三回>
- 4月 「ひとり親の食糧支援」へNPOフードバンク横浜の活動支援 <第五回>
- 5月 「海の豊かさを守ろう」国際的な環境認証ブルーフラッグの活動支援 <第三回>
- 6月 「ひとり親の食糧支援」へNPOフードバンク横浜の活動支援 <第六回>
- 8月 「ジョブまるキッズ」川崎市幸区子ども職業体験イベント
- 9月 「ひとり親の食糧支援」へNPOフードバンク横浜の活動支援 <第七回>
- 11月 「海の豊かさを守ろう」国際的な環境認証ブルーフラッグの活動支援 <第四回>
「ひとり親の食糧支援」へNPOフードバンク横浜の活動支援 <第八回>

人的支援 ブルーフラッグ、フードバンク、子育てネットワーク、ごみ拾いSNS「ピリカ」を通して	社員ボランティア参加人数(のべ人数)	110人
	関係者の参加人数(のべ人数)	129人
	一般の参加者人数(のべ人数)	495人
製品による支援	テレビ製品の寄贈	46台
	冷蔵庫製品の寄贈	30台
活動を通じてご協力させて頂いた団体様	日本ブルーフラッグ協会様、ごみ拾いSNS「ピリカ」様、NPOフードバンク横浜様、鹿島田デイズ様、川崎市幸区様、NPOむすびえ様、NPO新座子育てネットワーク様	

自然環境の保護



「海の豊かさを守ろう」

国際的な環境認証ブルーフラッグの活動支援



活動目的・OBJECTIVE

ご家庭に家電製品をお届けするハイセンスジャパンは、プラスチックごみの問題を身近なことと捉え、この「海の豊かさを守る」活動を実施しています。人が捨てたプラスチックは環境から消えることなく、海の生態系を傷つけます。そのため私たちには2021年より国際環境認証「ブルーフラッグ」の日本での活動を支援しています。「海の豊かさを守る」活動を支援するにあたり社員がボランティア参加して「海の世界授業」を通し環境保護について学び地域と共に社会貢献を継続実施しています。



活動内容・DESCRIPTION

本取り組みは2022年に「綺麗なビーチでスポーツを楽しむ」をテーマとしては2回実施しました。協賛企業としてハイセンスジャパンの社員は一般参加者と共に、プロ選手から、ビーチスポーツのレクチャーを受けながら、選手たちと一緒にビーチスポーツを楽しみました。

一回目(通算・第三回)は5月28日、「ブルーフラッグ取得6周年記念イベント」として鎌倉市の由比ガ浜海水浴場で開催。ハイセンスジャパン社員・同伴家族と、プロスポーツ選手、一般参加者と共に、総勢約80名がビーチクリーンとビーチスポーツの体験会、海の世界授業に参加しました。参加者の皆さんは、街から来たプラスチック、紙、布など、海洋環境を汚さないように、ビーチスポーツで怪我をしないように海岸清掃を

行ってから、プロ選手たちと一緒にラグビー/ビーチサッカー/テニス/ライフセービング4種類のビーチスポーツを体験しました。海の世界授業コーナーでは、クイズ形式で海の世界知識を学びました。最後に、活動全体を通してもっとも活躍したお子さんにMVP賞を選手の皆さんに選出頂き、ハイセンスジャパンより、大画面液晶テレビを贈呈させて頂きました。

二回目(通算・第四回)は11月5日、江の島片瀬西浜・鶴沼海水浴場の「ブルーフラッグ」取得1周年を記念した環境美化・環境保護活動として実施しました。前回と同じようにビーチクリーン、ビーチサッカーとラウンドネットなどのスポーツを行ったほか、クイズ形式で環境教育をし、クイズの勝者にはハイセンスジャパンより大画面テレビを進呈しました。



実施概要・OVERVIEW

一回目(通算・第三回)

- **日時:** 5月28日(土)9:00~12:30
 - **場所:** 由比ヶ浜(神奈川県鎌倉市)
-
- **主催:** ・NPO法人湘南ビジョン研究所
・一般社団法人日本ブルーフラッグ協会
 - **協賛:** ハイセンスジャパン株式会社
-
- **参加者:** ・ハイセンス社員・同伴家族16名
・プロスポーツ選手と一般参加者約60名
-
- **ビーチスポーツ講師:**
 - ・廣瀬俊朗さん(ラグビー元日本代表キャプテン)
 - ・原口翔太郎選手(東京ヴェルディビーチサッカー)
 - ・上里琢文選手(東京ヴェルディビーチサッカー)
 - ・柴山葵選手(ビーチテニス元日本代表)
 - ・田中綾さん(2018・2021全日本ライフセービング選手権優勝)
 - ・槇仁彦さん(鎌倉ライフガード)
 - **環境教育講師:**
片山清宏さん(NPO法人湘南ビジョン研究所)

二回目(通算・第四回)

- **日時:** 11月5日(土)9:30~12:15
 - **場所:** 片瀬西浜・鶴沼海水浴場(神奈川県藤沢市)
-
- **主催:** ・NPO法人湘南ビジョン研究所
・一般社団法人日本ブルーフラッグ協会
 - **協賛:** ハイセンスジャパン株式会社
-
- **参加者:** ・ハイセンス社員8名
・プロスポーツ選手と一般参加者約42名
-
- **ビーチスポーツ講師:**
 - ・原口翔太郎選手(東京ヴェルディビーチサッカー)
 - ・鳴海周一郎選手(ラウンドネット湘南 共同代表)
 - **環境教育講師:**
伊藤美保さん(NPO法人湘南ビジョン研究所)



参加者のコメント・COMMENT



原口翔太郎 選手
東京ヴェルディビーチサッカー所属

たくさんの方にビーチサッカーの魅力をお伝えできて嬉しかったです。本イベントでは、ビーチクリーン活動、海の環境教育クイズを行い、大切な湘南の海を守る気持ちが更に強くなりました。また、ビーチサッカーの他にスパイクボールというNEWスポーツも体験でき、また新たな仲間ができました。イベントに関わった皆さま、ありがとうございました。



廣瀬俊朗さん
ラグビー元日本代表キャプテン

短い時間ですが、いい天気の中かでいろんな競技を体感してもらって、すごくよかったです。普段ラグビーボールを触っていない子どもたちもラグビーをしてきつと楽しめたのではないのでしょうか。車いすの方も(由比ヶ浜に)来られるので、ブルーフラッグはすごく大事な活動です。この活動はもっと日本で広げてほしいです。ハイセンスジャパンの皆さんは今回のイベントをサポートして頂き、本当に感謝です。私も神奈川県に住んでいますので、これからもこのエリアで一緒にやっていくことができれば嬉しいなと思います。



片山清宏 理事長
湘南ビジョン研究所

ブルーフラッグは、認証を取得するだけでなく本日のように地元で継続的に環境保全をする、環境教育を行い海の豊かさを次世代へ繋ぐことが重要な認証制度です。片瀬西浜海岸の取得1周年を記念してこのようなイベントが実施できて大変嬉しく思いますし、地元の皆さんが多数参加頂けて感謝申し上げます。湘南の海を盛上げて、地元がますます豊かになるよう頑張りたいです。今後ともブルーフラッグを宜しく願い致します。



鳴海周一郎 選手
ラウンドネット湘南 共同代表

スパイクボールはまだ多くの人に知られたスポーツではありませんが、今日はたくさんの方に体験頂けて本当に良かったです。多くの方が笑顔でプレーを続けてくれているのをこの砂浜で見ることができてこのスポーツの可能性を僕自身も実感できて非常に嬉しかったです。このような機会を与えて頂いた関係者の皆様に感謝致します。スパイクボールの益々の普及に頑張りたいです。



馮晨さん
ハイセンスジャパン 社員

今回のボランティア活動に参加でき非常に嬉しいです。地元の方々と一緒に砂浜でゴミ拾いをし、いろんなビーチスポーツを体験することで、みんなの素敵な笑顔を見られて、ハイセンスジャパンが地元社会に馴染んで貢献活動することの意義を深く感じました。今後もこの活動に参加したいと思います。



王子賢さん
ハイセンスジャパン 社員

こんな機会を作って貰った会社に感謝します。皆さんと一緒にビーチクリーンをし、選手たちと一緒にビーチスポーツを楽しむのは、非常に貴重な体験です。こういった活動で同僚との距離感も縮まり、次回も応募したいと思います。

「今月の福星」ごみ拾いSNS「ピリカ」イベント



いつでもどこでも、
社会貢献活動を！

活動目的・OBJECTIVE

2021年11月から実施した街からごみを削減するごみ拾いSNS「ピリカ」活動は、ハイセンスジャパンの社会貢献重点テーマ「海の豊かさを守ろう」に通じる理念です。また自分たちの周りを綺麗にするという習慣は規律ある会社風土の基礎となるとも言われています。休日に多くの時間を費やすボランティアと違い、本活動なら全社員が日常取組み、社員全員でこの活動を広げていくために「今月の福星」企画をスタートし全員で社会貢献できる仕組みとしました。

活動内容・DESCRIPTION

社員がごみ拾い&社会貢献のソーシャルアプリ「ピリカ」に登録し、日常生活の中で自主的にごみを拾って「ピリカ」に投稿します。ほかのユーザーから貰った「ありがとう」の数で、もっとも貢献した社員を毎月各拠点の「福星」社員として決定して奨励します。社員が出勤日の昼休みでもごみ拾いを実施できるように、トンゴやごみ袋などの道具も事務所に用意しています。

参加者のコメント・COMMENT



登正治さん

ハイセンスジャパン 社員

社会貢献活動で、海や山の清掃ボランティアなどの経験もありますが、場所が遠い場合など気軽に参加が難しいこともありました。<ピリカ>だと昼休み、通勤途中、休日の自宅周辺の散歩を兼ねてなど、いつでも気軽に、できる範囲で参加することができ、とても気に入っています。今では鞆にトンゴとゴミ袋は常備しています。ごみ拾いは、「福拾い」とも言われますね。「福」を拾っていると、通りがかりの方に、「ありがとうございます」、「ご苦労様」など声をかけて頂けるのも嬉しいです。また<ピリカ>のアプリでも「ありがとう」を送ったり、もらったりことができ、他のユーザーの方とコメントで繋がることも励みにもなります。

実施概要・OVERVIEW



参加社員の人数：

29人



回収したごみの量：

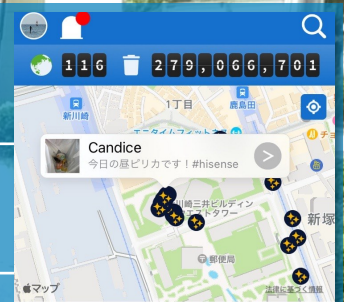
9201L



ユーザーから貰った「ありがとう」の数：

97,181

※12月21日まで、3拠点合計



地域社会への貢献



「ひとり親の食糧支援」 NPOフードバンク横浜の活動支援



活動目的・OBJECTIVE

コロナ禍をはじめ生活格差の拡大で、特にひとり親を中心に生活困窮の家庭が増えています。川崎市や横浜市でもその数は増大し、一方で食品ロスなど食品の廃棄問題はSDGsでも大きな課題となっています。生活困窮者に手を差し伸べ、かつ食品の廃棄の課題にも向き合う「ひとり親支援・フードバンク」という活動が社会で求められています。ハイセンスジャパン社員がその活動に「ボランティア」参加することで、企業市民の一員として、生活困窮者支援へ貢献します。

活動内容・DESCRIPTION

ハイセンスジャパンの社員はボランティアとして、NPOフードバンク横浜が休日に主催する「ひとり親への食糧配布会」に自主参加し、ほかの一般からのボランティアと一緒に食糧運搬と会場準備、食糧配布、撤収作業などをお手伝いします。様々な団体や企業・個人の方から頂いた寄付の品々（食料や調味料、文房具屋、衣類など）をその寄付の想いを感じながら来場のシングルマザー・ファーザーの方々に手渡し、逆に来場者からはたくさん「ありがとう」の言葉を頂く会となっています。

参加者のコメント・COMMENT



井口浩一さん

ハイセンスジャパン 社員

社会貢献は会社の重要な活動です。ボランティア参加することで地域貢献することも大事ですし、社内社外も含めてふだん接することのない方々とコミュニケーションをとることもとても有意義です。日々忙しく仕事をしていますが、休日にこのような社会参加をすることで新鮮な気持ちになれることも、とても素晴らしいです。



呉松霖さん

ハイセンスジャパン 社員

今回、ハイセンス社員ボランティアの代表として働きました。朝10時から荷物を搬入してお米や衣類、食器など机の上に並べ来場される方を待ち11時には皆さんが来場されて、私たちは食料などの配布を行いました。私たちも、来場のシングルマザー・ファーザー、子供たちと一緒に楽しくご飯を食べました。前回も会った女の子から「ありがとうございます」と言われその時の、彼女と彼女のお母さんの笑顔で、私はボランティア活動のやりがいを深く感じました。

実施概要・OVERVIEW

主催者：特定非営利活動法人フードバンク横浜

場 所：神奈川地区センター/

横浜市神奈川区神奈川本町8-1

実施回数：**4回**

【第一回】(通算・第五回)

日時：4月16日(土) 10:00—16:00

参加社員：**7人**

参加家庭：**51世帯**

【第二回】(通算・第六回)

日時：6月18日(土) 10:00—16:00

参加社員：**3人**

参加家庭：**52世帯**

【第三回】(通算・第七回)

日時：9月17日(土) 10:00—16:00

参加社員：**5人**

参加家庭：**53世帯**

【第四回】(通算・第八回)

日時：11月19日(土) 10:00—16:00

参加社員：**3人**

参加家庭：**50世帯**

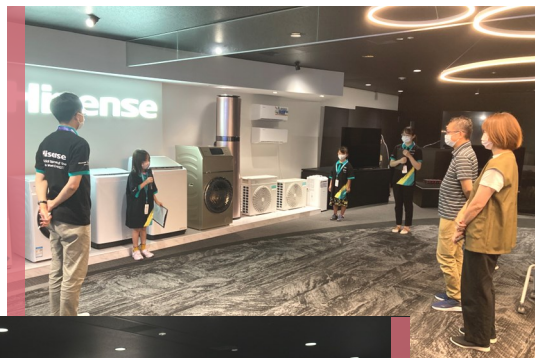


「ジョブまるキッズ」 川崎市幸区子ども職業体験イベント



活動目的・OBJECTIVE

エリアマネジメント組織「鹿島田デイズ」が実施した本活動は、子供たちに地域の企業やお店での仕事を体験してもらおうというもので、本物の商品やサービスを提供することで、働く楽しさ、苦勞を体験してもらいます。ハイセンスはこの活動において、家電企業として参加し、来場の子供たちに家電説明員の体験を提供しました。ハイセンスの制服(ポロシャツで代用)と名札を付けてもらい、ショールームで本物の製品に触れながら、家電知識を学び、模擬接客などにより家電の魅力を感じてもらいました。



活動内容・DESCRIPTION

今回のイベントでは、ハイセンスの商品説明員がショールームで展示されているテレビ、冷蔵庫、洗濯機、エアコンを説明するシーンを模倣し、子どもたちに商品プロモーションという業務を体験してもらいました。15名の子どもは4組に分かれて、1コマ1時間で入れ替えて進行。ハイセンスのポロシャツを着て説明を練習して、ほかの会議室で待機していたご両親をショールームへ呼んで、子どもたちは商品説明を実施。子どもたちは頑張ってハイセンス商品の魅力をご両親に伝えてもらいました。



働くことの楽しさと大変さ、
やりがいを感じて、
地元への愛着を高めてもらう

実施概要・OVERVIEW



実施主体：鹿島田デイズ
川崎市幸区



日時：2022年8月20日



場所：ハイセンス新川崎オフィス



参加者：子ども15名と同伴家族



全国こども食堂応援プロジェクト <第三回>



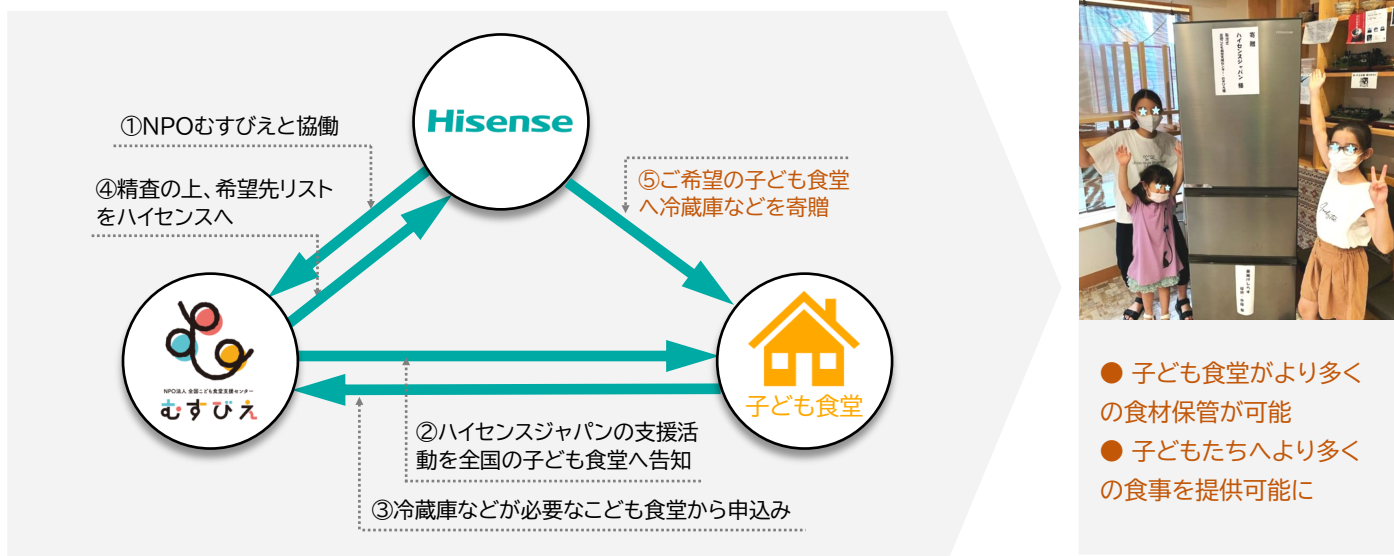
活動目的・OBJECTIVE

こども食堂とは、様々な理由で食事を家庭で取りにくい子供たちに無償または低額で食事を提供する活動です。全国のこども食堂を支援する認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえによると、2022年12月発表時点で全国には7,000以上のこども食堂がありますが、全国にある681のこども食堂が回答したアンケートでは、物価上昇により8割が「費用の負担が増えた」といいます(むすびえ様調べ)。NPO

の方々からは「頂いた食材を少しでも多く保存したいが、冷蔵庫などの保管設備に限られる」との課題を、お伺いしました。

そこで、ハイセンスジャパンでは、希望する全国のこども食堂に冷蔵庫を寄付し今よりも多くの食材を保管し、子供たちにたくさんの食事を提供頂けるようにご支援したい、との思いでこのプロジェクトをスタートさせました(ご支援の過程で要望により大画面テレビも支援品に加えています)。

活動内容・DESCRIPTION



- 子ども食堂がより多くの食材保管が可能
- 子どもたちへより多くの食事を提供可能に

第一回

実施地区：
中国・四国地区
2021年8月30日～

冷蔵庫寄贈：
10か所、10台

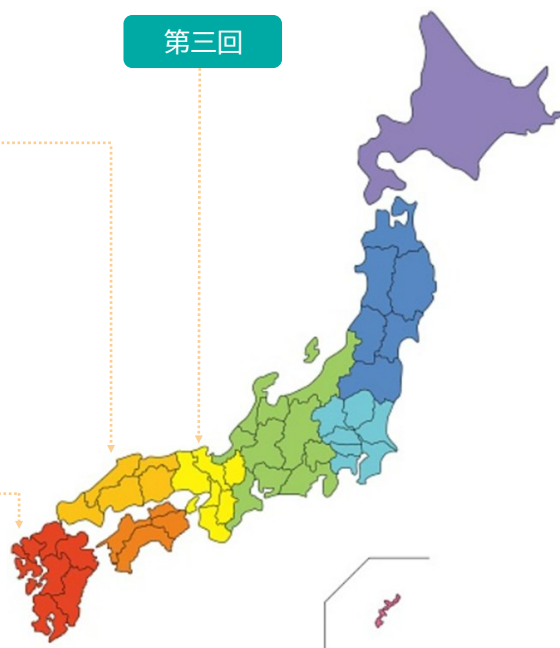
第二回

実施地区：
九州地区 2021年10月29日～

冷蔵庫寄贈：
20か所、20台

テレビ寄贈：
10か所、10台

第三回



第三回

実施地区：
関西地区
2022年1月27日～

冷蔵庫寄贈：
10か所
10台



テレビ寄贈：
33か所
33台



■ 第三回全国子ども食堂応援プロジェクトの詳細

No	子ども食堂名	製品品類	台数
1	こども食堂「な釜」(京都府)	冷蔵庫	1
2	丹波つながり子ども食堂(京都府)	冷蔵庫	1
3	わつなぎ食堂(滋賀県)	冷蔵庫	1
4	たけだスマイル食堂(兵庫県)	冷蔵庫	1
5	かめの子ども食堂(滋賀県)	冷蔵庫	1
6	おおしょうのスマイル食堂(兵庫県)	冷蔵庫	1
7	アットホームYAMATO(奈良県)	冷蔵庫	1
8	こどもソーシャルワークセンターeataalk(滋賀県)	冷蔵庫	1
9	スマイルホームいんなみ(兵庫県)	冷蔵庫	1
10	竹の里子ども食堂実行委員会(京都府)	冷蔵庫	1
			合計:10
11	ママキラ☆プロジェクト(京都府)	テレビ	1
12	みんなのごはん北鈴蘭台(兵庫県)	テレビ	1
13	E-KOnoOTAKU 子ども食堂(滋賀県)	テレビ	1
14	一般財団法人こどもサポート財団(兵庫県)	テレビ	1
15	へいなんこども食堂(兵庫県)	テレビ	1
16	しゅうしんこう晴天食堂(兵庫県)	テレビ	1
17	逢坂アモーレ子ども食堂(滋賀県)	テレビ	1
18	きうちこども食堂(和歌山県)	テレビ	1
19	椎野さん家のお昼ごはん(兵庫県)	テレビ	1
20	みやきたこども食堂(和歌山県)	テレビ	1
21	おひさま食堂(兵庫県)	テレビ	1
22	うえがはらふれあい食堂(兵庫県)	テレビ	1
23	あふるるフードパントリー(京都府)	テレビ	1
24	てるてるぼうず(滋賀県)	テレビ	1
25	今池子ども食堂:ゴリゴリ(京都府)	テレビ	1
26	ときわぎキッチン(奈良県)	テレビ	1
27	おかまち食堂(奈良県)	テレビ	1
28	天理こども食堂(奈良県)	テレビ	1
29	たからづか子ども食堂(兵庫県)	テレビ	1
30	特定非営利活動法人 せいじゅんたすけあい こども食堂(奈良県)	テレビ	1
31	嵐山こども食堂(京都府)	テレビ	1
32	しゃりりん子ども食堂(兵庫県)	テレビ	1

No	子ども食堂名	製品品類	台数
33	歩味こども弁当プロジェクト(奈良県)	テレビ	1
34	ひよこ食堂(兵庫健)	テレビ	1
35	大宮子ども料理教室(奈良県)	テレビ	1
36	こども食堂わだち(京都府)	テレビ	1
37	ともともランチ(京都府)	テレビ	1
38	すまいる食堂(京都府)	テレビ	1
39	Kitchen 夢小屋(和歌山県)	テレビ	1
40	こどもの居場所 みんなにっこにこ(京都府)	テレビ	1
41	うねび にっこりこども食堂(奈良県)	テレビ	1
42	にじいろこども会(和歌山県)	テレビ	1
43	アンゼリカ(京都府)	テレビ	1
			合計:33

団体のメッセージ・MESSAGE

■ しゅうしんこう晴天食堂 様

ハイセンスジャパン株式会社様の社会貢献活動の一環として、全国の子ども食堂に対して、自社電化製品のご提供という私達にはとても有難いお申し出を賜り誠に嬉しい限りでございます。

また、その中で当方「しゅうしんこう晴天食堂」の活動にご理解くださりまして、貴社製品の50v型4K液晶テレビをご提供いただき子供達も大喜びでございました。

私共の「しゅうしんこう晴天食堂」は、2021年の8月1日より始めさせていただきました。この場所に来る全ての人の心が晴天になれるようにと、思いを込めて名前をつけさせていただきました。月1回をカレー食堂、もう1回をフードパントリーの月2回活動をしております。利用してくださる方には、「一人親世帯」「生活困窮者世帯」や様々な問題を抱えておりますご家庭などが30世帯超ございます。最近では、80食を超える数のカレー弁当を提供させていただいております。このような活動が継続できますのも多くの方々のご支援があるからこそだと思っております。

これからもこのような活動を通して、心が晴れ晴れとする「晴天心」になれるような食堂を目指していきたいと思っております。

コロナ禍で大変な時でありますので、どうぞ貴社の皆様におかれましては、十分にご自愛にてご活躍くださいますよう心からお祈り申し上げます。



■ Kitchen夢小屋 様

先日、50インチテレビを寄贈していただいた和歌山市の”Kitchen 夢小屋”です。ようやく再開できました。写真を添付いたします。

夢小屋は地域の子ども会や小学校とも連携を取りながら、子供や地域の様子の情報を提供しています。現時点では、子ども会や学校で子どもたちが作った動画、DVDなどを放映しています。自分や友達を探しながら楽しそうにみんなで観ています。

また、独居老人の利用も多く、子どもたちと話すことを楽しみにしてくれています。その話題作りになればと考えています。ありがとうございました。



■ わつなぎ食堂 様

2月26日に「わつなぎ食堂」を開催いたしました。コロナ感染の関係で学級閉鎖などがあり子どもたちは少なかったですがみんな来てくれました。

子どもたちは冷蔵庫の存在に気付き、喜んでくれました。お礼に自分たちで書いたメッセージと共に写真撮影しました。お手伝いをする！大きな冷蔵庫の中にあるジュースをみんなに配っていました。

ありがとうございました！



子どもの居場所 「NPO法人新座子育てネットワーク」の活動支援



活動目的・OBJECTIVE

現在日本では、こどもの「七人に一人が貧困」と言われています。飢餓などの絶対的貧困ではなく「親の収入が平均値の半分以下の世帯」で、「給食以外まともな食事がとれない」「勉強する場所がない」「家族旅行の経験がない」など外から見えにくい貧困が社会課題となっています。こどもの成長にとって必要な「食」「コミュニケーション」「学び」、このような欠如の解消へ向けて、埼玉県新座市にあるNPO新座子育てネットワークでは「子供の居場所づくり、こども食堂」を実施しています。ハイセンスジャパンではサービス拠点である新座サービスセンターを中心にこの活動への支援を行っています。

活動内容・DESCRIPTION

「NPO法人新座子育てネットワーク」は、子どもたちが自由に、思い思いに、仲間と過ごせる場所を作るために、「夏ひろば」と「冬ひろば」という「子どもの居場所」活動を展開しています。ボランティアとして活動に参加する大人の役割は、子どもたちが楽しく安全に交流できるように見守り、話を聞き、困ったときに力になることです。ハイセンスジャパンの社員が3月19日、新座市の「新堀ふれあいの家」で行った活動に参加しました。活動開始の前に、ハイセンス社員はNPOのスタッフと一緒にマニュアルの確認、会場セッティング、受付を行いました。活動開始後、工作・勉強・ゲームなどのコーナーで、おもちゃや本を使って子供と遊びました。こどもたちとの交流が終わったら(コロナ対策のため「食堂」ではなく)「ランチバッグ(食料)」を子どもたちに配布しました。活動終了後、NPOのスタッフと協力して会場の片付けをしました。



実施概要・OVERVIEW

実施回数: 1回(通算・第三回)

日 時: 2022年3月19日

場 所: 新座市にいざふれあいの家

参加子ども: 非公開

参加社員: 5名



ハイセンスグループについて・ABOUT HISENSE GROUP

日本市場で育てて頂いた私たちだからこそ、いま日本が直面する社会課題に、重点的に取り組めます。

ハイセンスグループは、1969年に中国青島に設立され、2019年に50周年を迎えました。現在従業員は全世界に約10万人、2021年度の売り上げは約3兆円(海外売上約1.2兆円)、テレビの出荷台数においては中国市場でシェアNo.1を誇っています。経営理念は『最高の技術、最高の品質、最高のサービスをもってグローバルブランドを創造する』であり、高い研究開発力と優秀なグローバル経営マネジメントを基礎に、最新の通信技術と人工知能システム、デジタルマルチメディア技術および家電、通信、不動産などの分野を網羅した多角化経営を確立し、世界の160以上の国と地域でハイセンス製品が選ばれています。

ハイセンスは世界中のスポーツを幅広くスポンサーし応援しています。2022年FIFAワールドカップ・カタール大会の公式スポンサーをはじめ、テニス、ラグビー、F-1などこれまでも様々なスポーツをサポートしてまいりました。ハイセンスはこれからもお客様のために、“暮らしの楽しさ”、“心の豊かさ”をお届けできるように取り組んでまいります。

ハイセンスジャパン・HISENSEJAPAN

社名：ハイセンスジャパン株式会社
 本社：
 神奈川県川崎市幸区鹿島田1-1-2
 新川崎三井ビルディングウエストタワー19階
 設立日：2010年11月4日
 代表者：代表取締役社長 李文麗
 事業内容：家電の輸入・販売等
 URL：<https://www.hisense.co.jp>





Hisense

■お問い合わせ先

ハイセンスジャパン株式会社 マーケティング部

E-mail: k.iekura@hisense.com

URL: <https://www.hisense.co.jp>